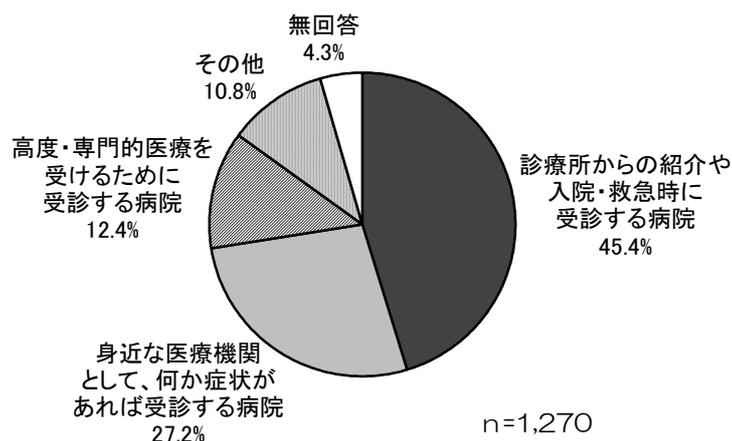


12 保健・健康

(1) 市立病院のイメージ (A：問23)

問. 市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。
(1つだけ)

図 12-1-1 市立病院のイメージ



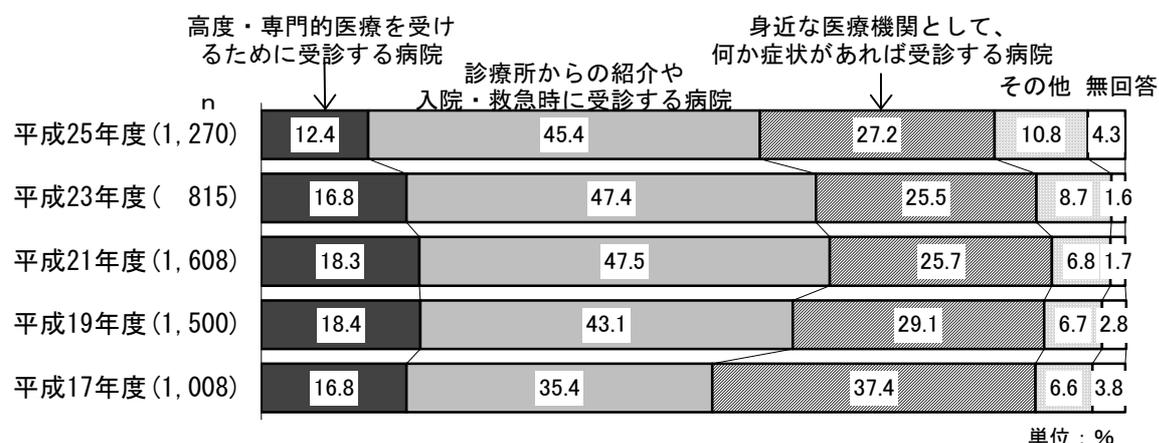
【全体】

市立病院に対して持っているイメージを聞いたところ、「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」(45.4%)が最も高く、次いで「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」(27.2%)、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」(12.4%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」が減少傾向となった。

図 12-1-2 市立病院のイメージ経年変化



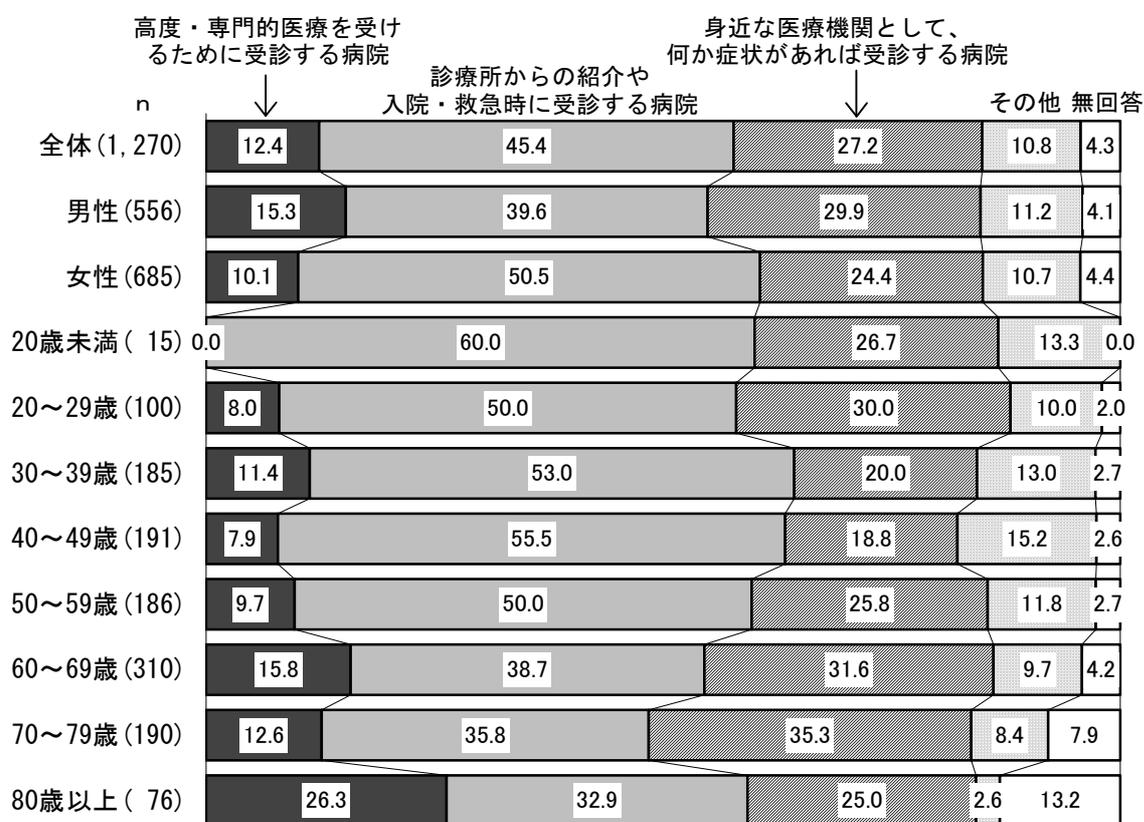
【属性別】

性別で見ると、女性では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（50.5%）が男性よりも 10.9 ポイント高くなっており、男性では「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（29.9%）は 5.5 ポイント、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（15.3%）は 5.2 ポイント、それぞれ女性より高くなっている。

年齢別で見ると、59 歳以下では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」との回答が5割を超えている。

30～49 歳は「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」は2割程度となり、他の年齢層よりも低い回答となっている。

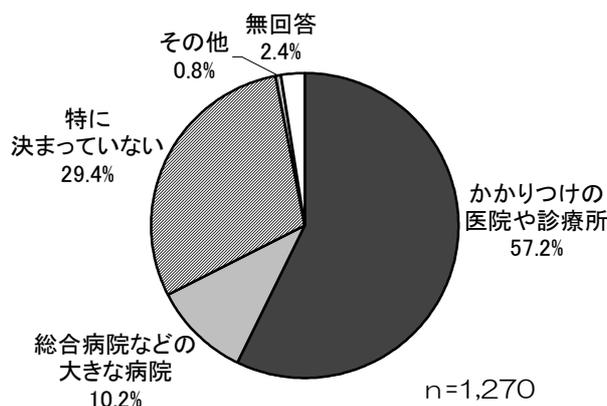
図 12-1-3 市立病院のイメージ—性別、年齢別



(2) かかりつけ医 (A : 問 24)

問. かかりつけ医 (主に医院や診療所など) は、日ごろから医療や健康相談等を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担がありますが、あなたはかぜなどにかかった時、通院する医療機関は決まっていますか。(1つだけ)

図 12-2-1 かかりつけ医



【全体】

かぜなどにかかった時、通院する病院は決まっているか聞いたところ、「かかりつけの医院や診療所」(57.2%) が、5割を超え、最も高くなっている。

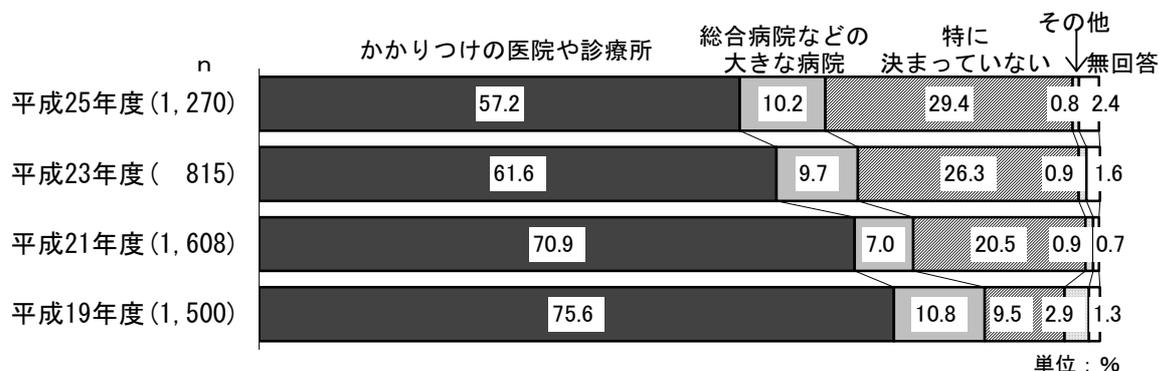
次いで、「特に決まっていない」(29.4) %、「総合病院などの大きな病院」(10.2%) となっている。

【経年変化】

経年による変化では、「かかりつけの医院や診療所」が減少傾向にあり、平成 19 年度調査と比べて見ると、今回の結果は 18.4 ポイントの減少となっている。

一方、「特に決まっていない」は引き続き増加傾向にあり、平成 19 年度調査と比べて見ると、20.1 ポイントの増加となっている。

図 12-2-2 かかりつけ医—経年変化

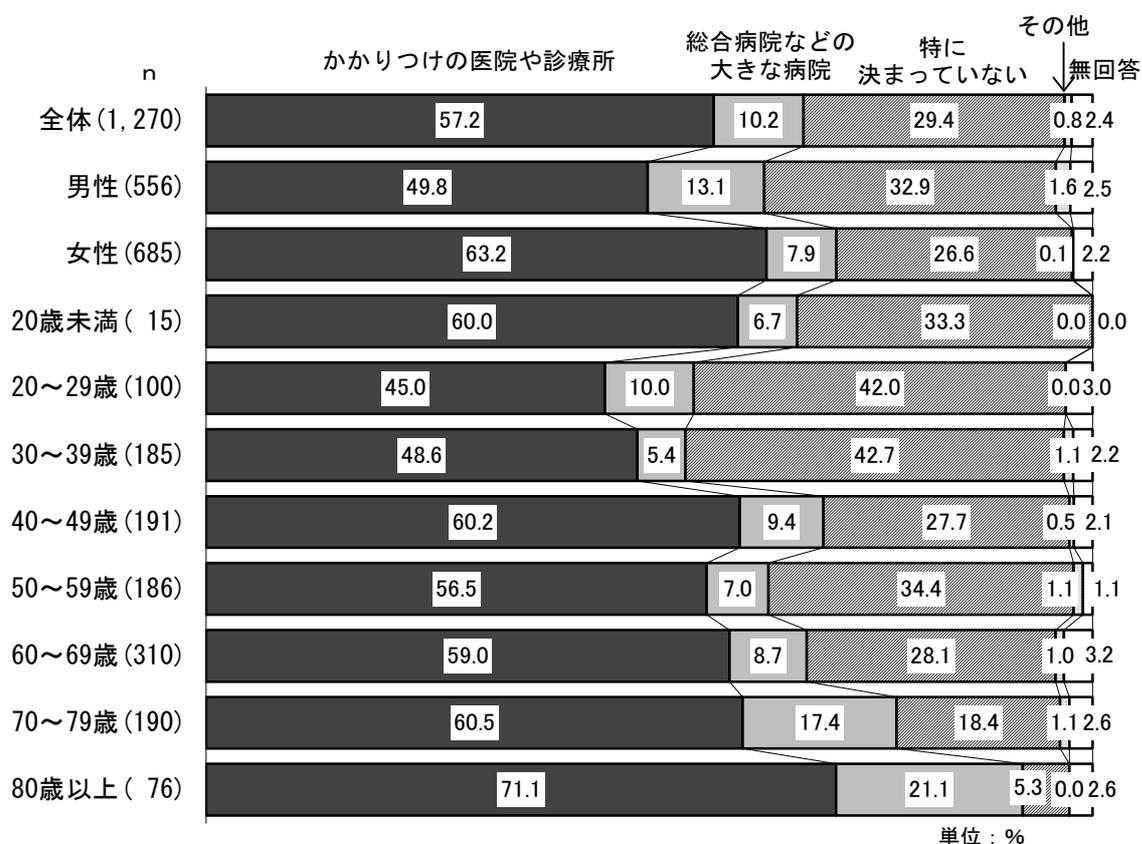


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」（63.2%）が男性より 13.4 ポイント高くなっている。一方、男性では「総合病院などの大きな病院」（13.1%）が、女性より 5.2 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、年齢層が上がるにつれて「かかりつけの医院や診療所」が高くなる傾向にあり、80歳以上（71.1%）では7割を超えている。一方、20～39歳では「特に決まっていない」が4割を超えて高くなっている。

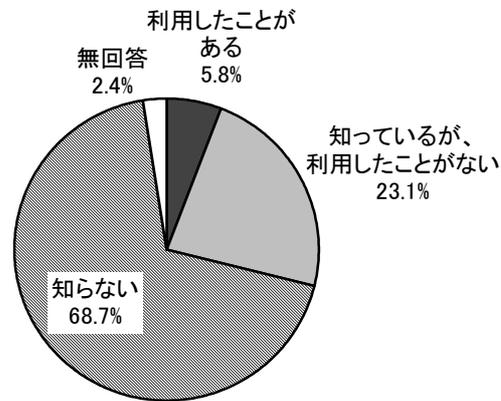
図 12-2-3 かかりつけ医—性別、年齢別



(3)「あつぎ健康相談ダイヤル 24」(A：問 25)

問. あなたは、24 時間フリーダイヤルで医師やカウンセラーが健康相談や医療機関情報についてお答えする「あつぎ健康相談ダイヤル 24」を知っていますか。(1 つだけ)

図 12-3-1 「あつぎ健康相談ダイヤル 24」



n=1,270

【全体】

「あつぎ健康相談ダイヤル 24」の利用について聞いたところ、「知らない」(68.7%)が最も高く、「利用したことがある」が5.8%、「知っているが、利用したことがない」が23.1%で、『知っている』のは全体の28.9%となっている。

【経年変化】

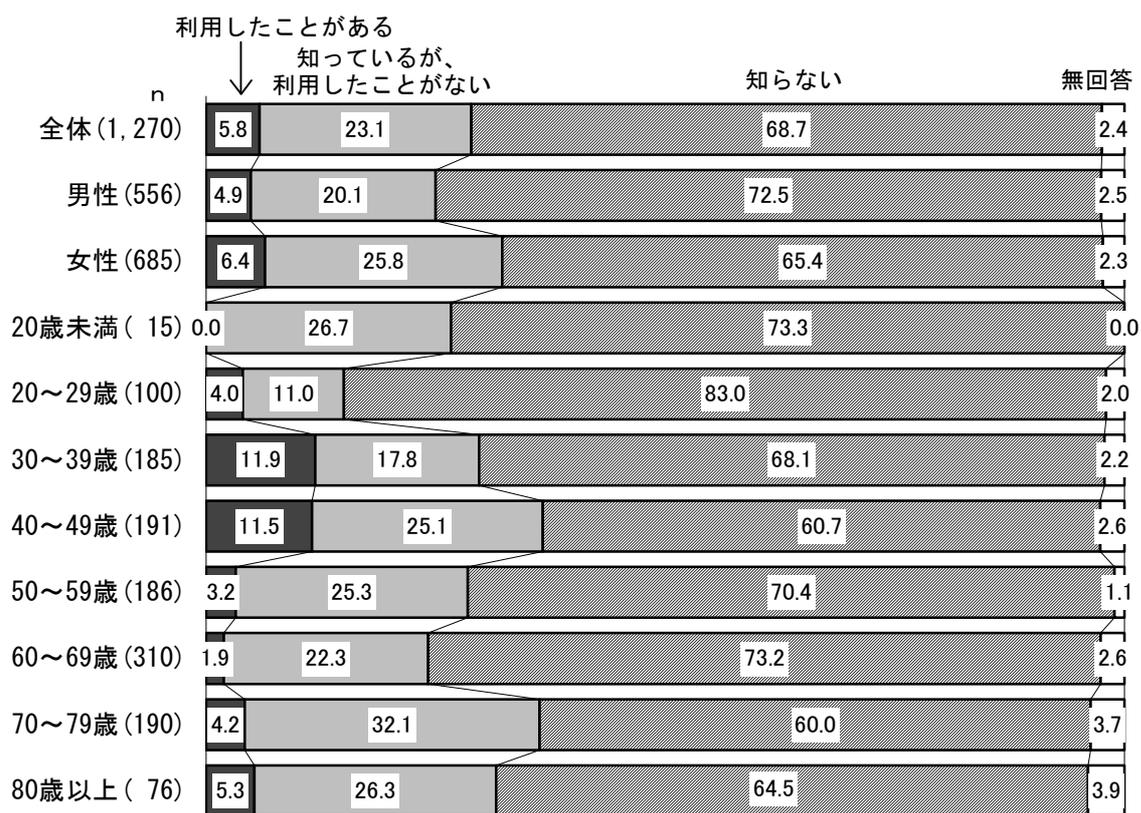
新規設問であるため、経年変化は記載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「知っているが、利用したことがない」(25.8%)が、男性よりも5.7ポイント高くなっている。一方、男性は「知らない」(72.5%)が、女性より7.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～49歳で「利用した事がある」との回答が、1割を超えている。

図 12-3-2 「あつぎ健康相談ダイヤル 24」—性別、年齢別

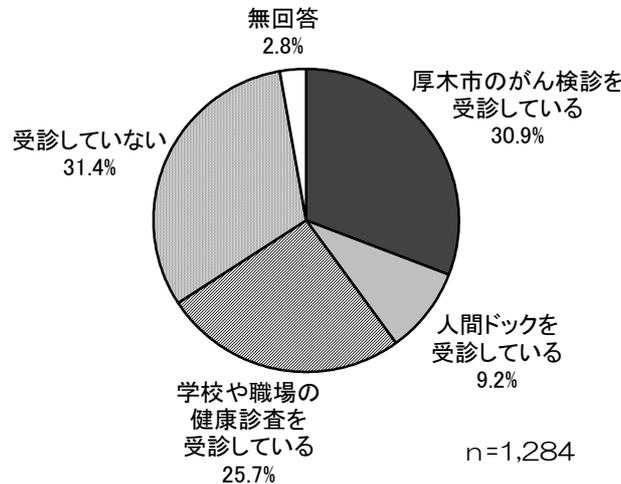


単位：%

(4) がん検診の受診状況 (B: 問 20)

問. あなたは、なんらかのがん検診を受診していますか。(主なものを1つだけ)

図 12-4-1 がん検診の受診状況



【全体】

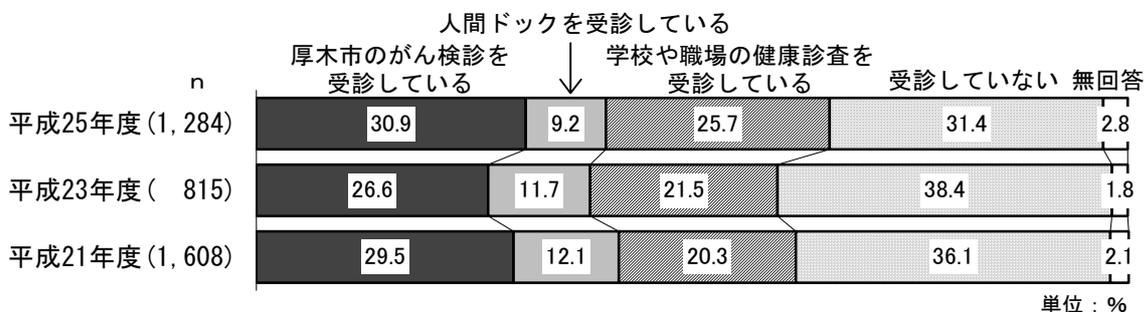
がん検診の受診状況について聞いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」(30.9%)が約3割と最も高く、次いで「学校や職場の健康診査を受診している」(25.7%)、「人間ドックを受診している」(9.2%)となり、それらを合わせた『受診している』(65.8%)は、6割を超えている。

一方、「受診していない」(31.4%)は、約3割となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、今回、「受診していない」(31.4%)との回答が、直近3回の調査で最も少なくなっている。

図 12-4-2 がん検診の受診状況—経年変化



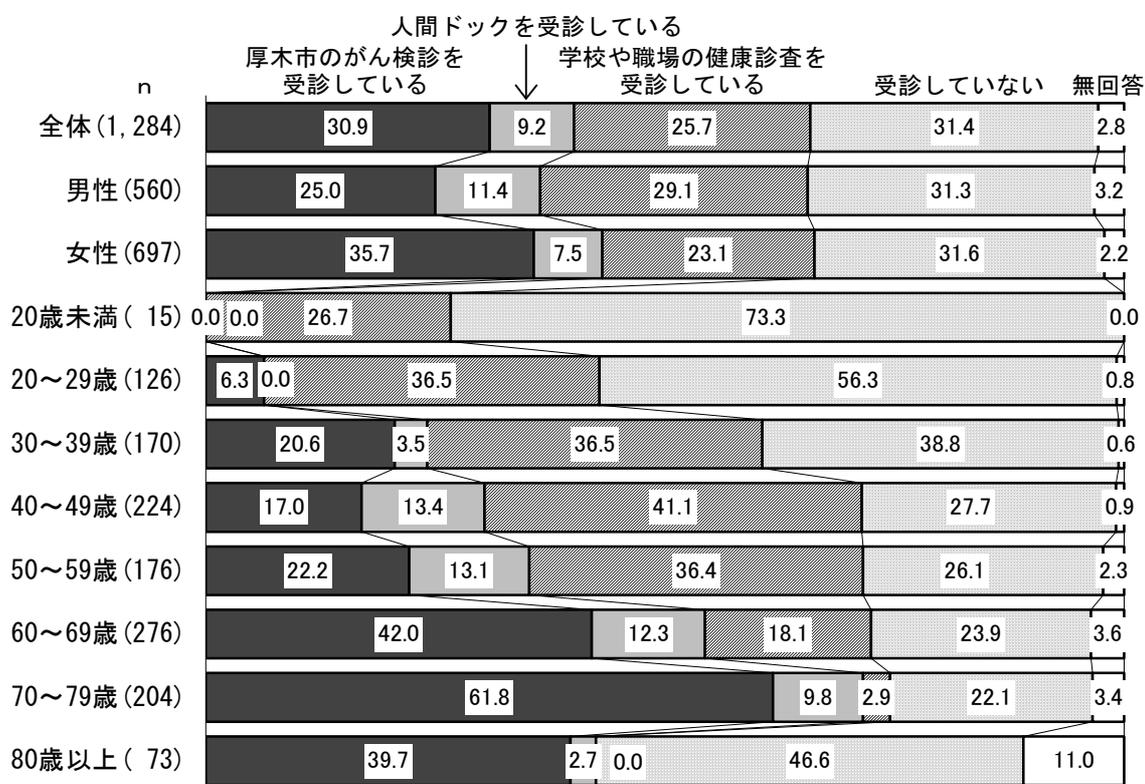
【属性別】

性別で見ると、女性では「厚木市のがん検診を受診している」(35.7%)が、男性よりも10.7ポイント高くなっている。一方、男性では、「学校や職場の健康診査を受診している」(29.1%)が女性よりも6.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、70歳代では「厚木市のがん検診を受診している」(61.8%)が6割を超えて高くなっている。一方、20～59歳では、「学校や職場の健康診査を受診している」との回答が、3割以上となっている。

29歳以下では「受診していない」との回答が半数以上となっている。

図 12-4-3 がん検診の受診状況—性別、年齢別

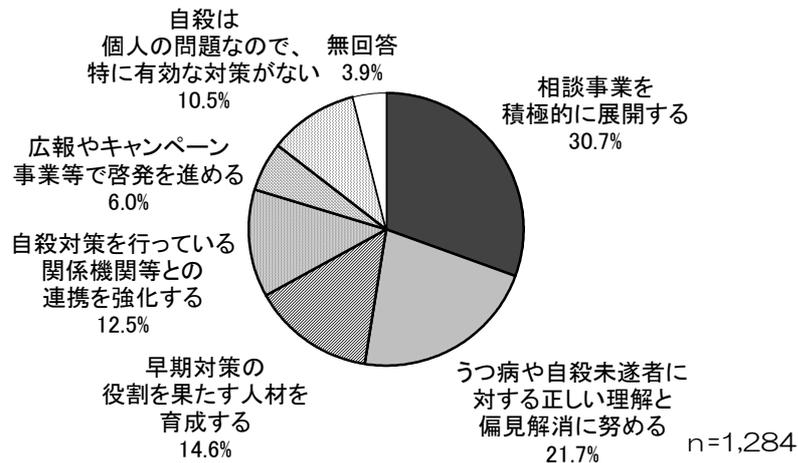


単位：%

(5) 自殺への対策（B：問 21）

問. 自殺で亡くなる方は全国で年間2万5千人を超え、厚木市でも少なくありません。このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。（1つだけ）

図 12-5-1 自殺への対策



【全体】

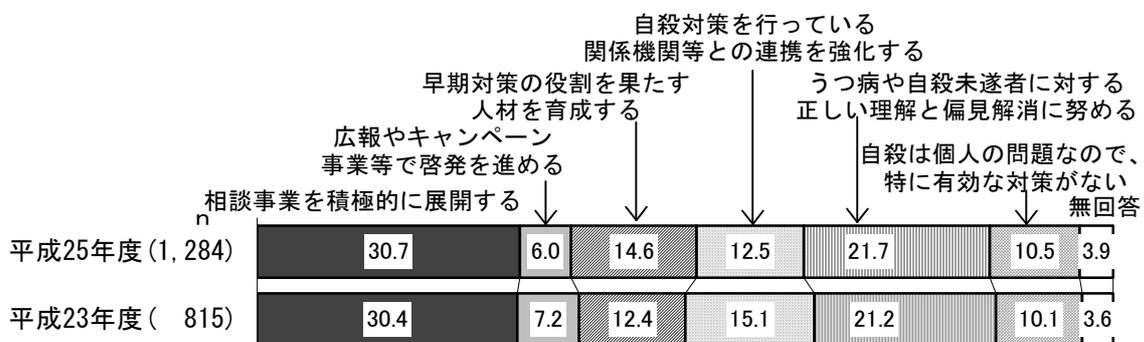
自殺への対策について聴いたところ、「相談事業を積極的に展開する」（30.7%）が約3割と最も高くなっている。次いで、「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（21.7%）、「早期対策の役割を果たす人材を育成する」（14.6%）となっている。

一方、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」（10.5%）となっている。

【経年変化】

経年による大きな変化は見られない。

図 12-5-2 自殺への対策—経年変化



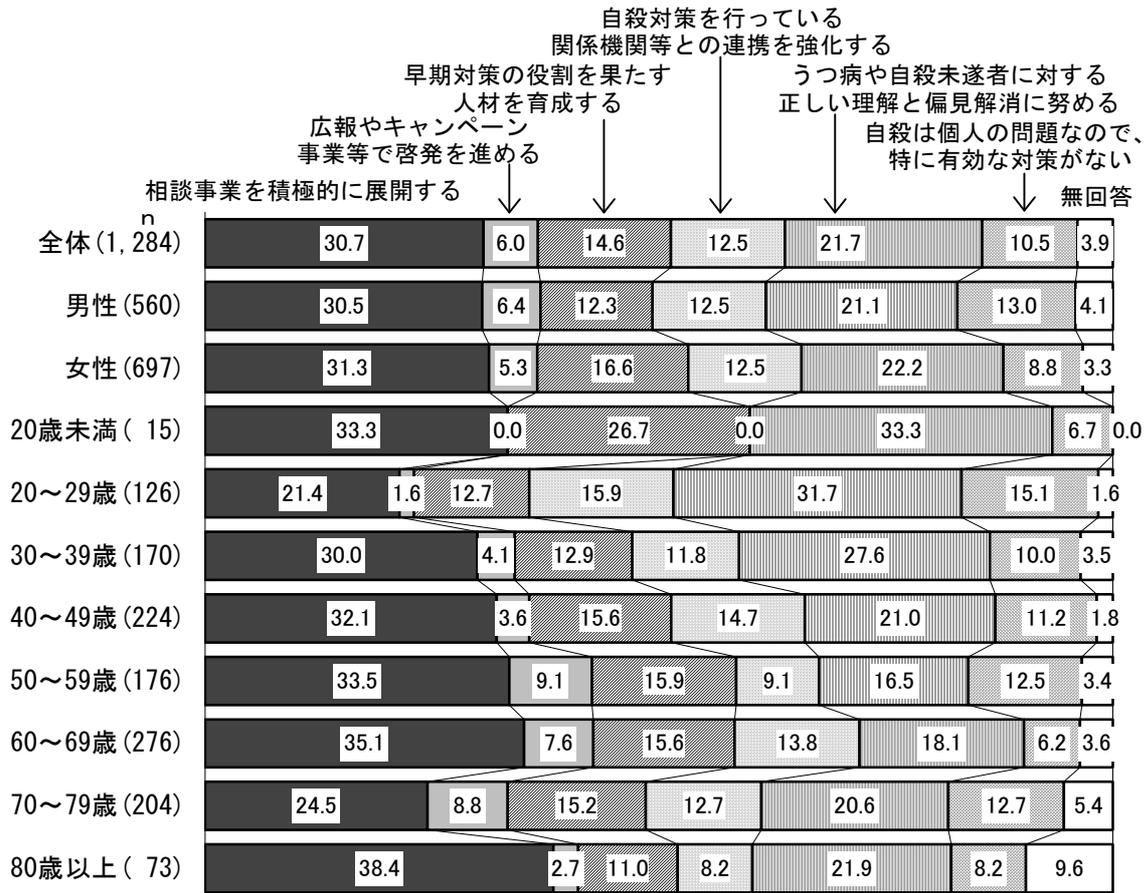
単位：%

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別に見ると、20歳代では「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」(31.7%)が高くなっており、「相談事業を積極的に展開する」(21.4%)は低くなっている。

図 12-5-3 自殺への対策—性別、年齢別



単位：%